



KANAIWA ONO
ART PROJECT

金石スタジオ 通信

12

金沢21世紀美術館が進めている金石大野芸術計画(Kanaiwa Ono Art Project)の活動の拠点となっている金石スタジオ(金石西2丁目17-23)から、毎月みなさまに、最新情報をお届けするニュースレターです。

PP
パブリック・
プログラム

週末コンテナ で沢山の出会い



滞在作家・田口行弘さんの作品をドイツから金石に輸送するために使われ、作品が海岸にある期間中空になった青色のコンテナ。ご近所のカワイ子さん、それを「週末コンテナ」という一風変わった駄菓子屋さんに変身させました。

十月中週末限定でオープンしていた「週末コンテナ」期間中は駄菓子販売と週替わりで販売・体験のプログラムを行いました。

金石在住の方との会話はまずはお住いの町(旧町名)を聞き、地図を見て答え合わせ。近所に知り合いがいるのだ、いないのだ、お祭りの曳山のシンボルのことなど地元ならではの話題で盛り上がりました。それぞれの視点での町の話は、生きた歴史を知る機会になりました。お店を開いてコンテナから海を見て気づいたのは、海岸沿いの道路の交通量の多さでした。ドライブやサイクリングで通りかかってくる人が多く、コンテナを覗き込んでくれるのですが、なかなか入ってきてくれない。「怪しくありませんよ!」と言いたけれど、コンテナで駄菓子を買って怪しくないわけがないと途中で気づきました。好奇心旺盛な方はご来店いただけ

たので、金石と大野のオススメスポットを紹介しました。こういう案内所あつたら面白いかも? 新たな発見です。



海岸に向かえば田口さんの作品である「あの小屋」(Discovery in Kanaiwa)が! 広大な敷地と水平線、洋風な建物、織りなす空気や時間は、まるで別の世界に行ったような感覚に。お店に来た方にも案内し、田口さんとキアラとの触れ合いはもちろん、そこいら人同士の交流も楽しまれています。海岸から戻って

きた方の話に花が咲いたのを思い出します。

オープンする日は晴れることが少なく、店主は一人寂しく過ごす時間もありました。近所のご家族、にわ部のお母さん、ドライブで通りかかったお兄さん、一つ一つのつながりが大きくなり、数え切れないほどの出会いが生まれました。終了後、知り合った皆さんに会えなくなり店主は「週末コンテナロス」になるほど。でも、同じ町に住んでいるんですもの! きつと、どこかで会える! また皆さんと遊べる日を心待ちにしています。



お世話になったコンテナは来春ドイツに行くそうです。「金石からドイツへ!」この響きがロマンありますよね。次はドイツで駄菓子屋したいと夢が広がる店主でした。(笑) (河合紗那、「週末コンテナ」店主)

にわ部

【レポート】
★にわ整備ワークショップ

秋も終わりに近づき、「本格的な冬が始まる前ににわ整備をしよう!」ということで、この秋から相談に乗っていただいた、金沢で造園設計をしている中村彩さんと山名造園さんとともに、十一月十日ににわ整備を行いました。

雨が降つたら泥濘の中の作業になるのでお天気心配でしたが、当日は風もなく快晴に恵まれました。にわ部の皆さんと美術館のスタッフが中村さんに指導を受けて、枕木と木炭を敷く作業を行いました。

まず、畝周りが泥で歩き難くなるのを防ぐために、にわの入り口から小屋側の水道周りにかけての小径を作るために枕木を敷きました。小径を作ることによって、水回りがかなり使いやすくなり、また、入口から水道にかけてのアプローチもしやすくなりました。お天気のいい日は、入口の土留めのために敷いた枕木の上に腰掛けて、にわを見ながらホッと一息つくのに使っていたことも可能です。次に、大きな屋根から雨水



が落ちて水溜りや泥濘むのを防ぐため、雨落ち用の木炭を敷く作業をしました。この木炭を敷き詰める排水方法は、茶庭で見かけますが、今回は茶庭でよく使われている菊炭ではなく、バーベキュー用の木炭で手軽に作る方法を教えてもらいました。木炭をひとつひとつパズルのように、一直線に隙間なく敷き詰める作業は根気のいるものでしたが、綺麗にまつす敷き詰められた木炭の雨落ちは、存在感があり、にわの印象をぐっと引き上げてくれました。

この枕木と炭を敷いてからは、屋根から流れ落ちてくる雨水が集水桝の方向に向かって緩やかに流れるようになり、水溜りや泥濘も減ってきました。にわの整備は今後も

続き、来春以降に樹木の植栽をする予定なので、自宅の庭や畑を手入れしたい、という方がいれば是非、次のワークショップにご参加ください！
(堀江紀子、コーディネーター)

【レポート】
★トークセッション「新居幸治 (Eatable of Many Orders)」



講師は、ファッションブランド「エタブルオブメニール」を主宰する新居幸治さん。Eatable（食べられる）というブランドの名前にも現れているように、「着る」と「食べる」とのつながりから新居さんは服づくりを考え続けてきました。2019年秋冬のテーマは「ハキサゴン（六角形）／ミツバチカルチャー」。トークでは、このテーマの背景に広がる、ミツバチの生態からハチミツ、養蜂まで存分に話っていたきました。

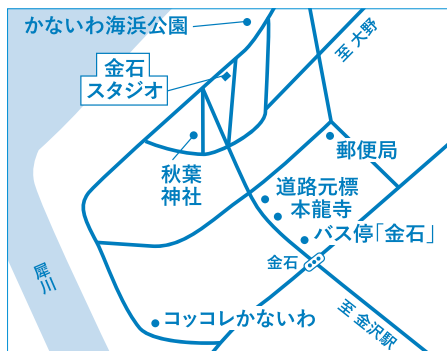
一見すると遠くにあるような、服づくりとミツバチ。新居さんはなぜこの二つをつなげてみようと思ったのでしょうか。きつかけは新居さんが大学で建築を学んだことにあります。六角形でつくられた構造でもっとも有名なのはミツバチの巣（ハニカム構造）でしょう。ハニカム構造は、いかに少ない量の材料で堅牢かつ無駄のない住処をつくることのできるのかという問いに、ミツバチが長い年月をかけて編み出した偉大な知恵なのです。この神秘的とも言える構造に学生時代から魅了されてきた新居さんが、さらにリサーチを進めた成果がこのテーマに結実したと言えます。

巣の構造だけでなく、ミツバチは独特の生態をもっています。そのコロニーは女王



蜂、働き蜂、雄蜂で構成され、生殖や産卵、造巣や採餌など、各々が役割を担いながら、一つの大きな生命共同体となつていきます。新居さんはこうした生態にも関心をもち、昨年から実際に養蜂を試みました。自分で育てた蜜の滴る巣箱の前に、ミツバチと養蜂の不思議な魅力を語る新居さん。メソポタミアの壁画に描かれた養蜂の様子から、ブリュゲルの絵画に見られる養蜂家の姿まで、古代から続くミツバチと人間との関係が丁寧に紐解かれました。こうしたリサーチから生まれた衣服や革製品などは、新居さんの活動拠点の熱海で、地元のお若男女がモデルとなつて披露され、そのショーの映像もご覧いただきました。

近年、日本をはじめ世界中でミツバチの大量死が報告されています。古来より人間と共生してきたミツバチの生態を知り、危うい状況を生き抜こうとするその姿に目を向けると、持続可能な社会やまちのこれからについて、何かヒントを発見できるかもしれません。
(中田耕市、金沢21世紀美術館キュレーター)



★ポットラックパーティ
12月14日⑤ 11時半〜13時頃
1月14日⑥ 11時半〜13時頃
※参加費無料 ※予約不要
収穫したものと情報交換の場としてのポットラックパーティ（一品持ち寄りのご飯会）を月一回程度開催しています。
★はま部×にわ部・クリスマスリースを作ろう♪
12月14日⑤ 13時〜14時頃
※材料費100円※予約不要
にわの植物や浜の漂着物でリースやキャンドルを作りませんか？
金石スタジオ
金石西2丁目17-23
バス停「金石」から歩いて5分、海岸通り沿いです。公共交通機関や徒歩、自転車などをご利用ください。
スタッフ常駐は、毎週土曜の15時〜18時です。